

梅雨前線による大雨の状況について

～『災害をもたらした気象事例』に資料を掲載しました～

令和5年6月28日から7月16日にかけての梅雨前線による大雨の状況に関する資料をとりまとめました。

気象庁では、大きな被害をもたらした気象事例や社会的な関心・影響が高い気象事例について、気象の状況を取りまとめて『災害をもたらした気象事例』として、ホームページで公表しています。

令和5年6月28日から7月16日にかけて、梅雨前線が日本付近に停滞し、前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で前線の活動が活発となり、九州（山口県を含む）や東北地方を中心に、西日本から北日本の広い範囲で断続的に大雨による被害が発生しました。

このことから、当時の大雨に関する資料をとりまとめ、『災害をもたらした気象事例』に掲載しました。

<災害をもたらした気象事例>（気象庁ホームページ）

<https://www.data.jma.go.jp/stats/data/bosai/report/index.html>

問合せ先：大気海洋部 気象リスク対策課 牛島、大塩

電話 03-6758-3900（内線 4256、4257）